

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2872200809		
法人名	社会福祉法人 はりま福祉会		
事業所名	せいりょう園グループホームまどか		
所在地	兵庫県加古川市野口町長砂1076 (電話) 079 - 427 - 3532		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年 1月25日	評価確定日	平成20年 2月27日

【情報提供票より】(平成19年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年 6月 1日(エイト)、平成14年 6月 1日(エイト)		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	14 人	常勤 8人, 非常勤 6人,	常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(68,000)、(100,000)	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240万円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	700 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名	
要介護 1	1	要介護 2	4			
要介護 3	2	要介護 4	2			
要介護 5	6	要支援 2	0			
年齢	平均	84.8 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村医院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR加古川駅から南東へ約2.0kmの所に位置し、住宅街の中にひっそり佇むホームである。建物は、旧農家の敷地内にあり、立派な門をくぐり、池や植木と静かな庭園の奥に、母屋に並んで建てられている。1階ユニットは、居室面積が15㎡でトイレ付き、2階ユニットはアパートとして建てられたため30㎡の部屋にバス・トイレ付きで、家人もゆっくり過ごせる広さである。母体法人内には、特別養護老人ホーム・ケアハウス・通所介護・訪問看護・居宅支援事業所などの事業所があり、特別養護老人ホーム・施設長が強いリーダーシップを取られている。入居者の生き方・死に方を受け入れながら看取る覚悟を持ち、入所時より終の棲家として、その人らしく安心して暮らしていけるように支援し、医療との連携も十分図られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価受審後に管理者が異動したため、評価についての引継ぎが十分行われておらず、それに対する取り組みは明確ではない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価においては、職員ともその意義を確認し合いながら、職員全員で取り組むことができている。その経過で、管理者の考えを再確認したり、職員間でも十分な意見交換ができ、日々のケアを振り返る場になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	定期的に運営推進会議を開催している。地域の民生委員や人権擁護委員・家族・市の関係者・職員などが参加し、法人全体やホームでのケアについての考え方や、事業報告などを説明し、意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	入所時の契約で、苦情の受付について説明している。玄関には意見箱を設置し、せいりょう園苦情調整委員会を月に一度開催するなど、意見・苦情などの受け入れ体制がある。今後は、入居者の家族等にとって、事業所に直接、言い出し難い意見・不満などが生じた場合でも、気楽に言える場作りの工夫を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	自治会に加入し、地域の秋・夏祭りや敬老会・運動会などの行事に招待を受け、希望する入居者と参加している。法人としても「介護者の集い」や「のびのびルーム」などで地域への貢献を図っている。今後は、地域からの参加者が増えるような検討をされ、さらに地域に根ざしたホームの在り方の模策や入居者が地域の中で安心して暮らせる支援を期待したい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として、国連の高齢者介護に関する五原則「自立・尊厳・参加・自己実現・ケア」を基本に具体化した理念があり、ホームとしてもこれに沿って自己が持つ力を発揮しながら、その人らしく尊厳を保つ生活に向けてケアをしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度の職員会議「まどか会議」や日々の支援において、入居者の身体機能が低下する中でも自らできることは出来るだけ行ってもらえるような自立へのケアやその人らしい生活が出来るケアなどについて話し合いながら、その実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地域における夏・秋祭りや敬老会・運動会などの行事に招待を受け、希望者は参加できている。また、月に一度の「介護者の集い」や「のびのびルーム」を法人全体で取り組み、地域との交流や地域への貢献を図っている。		法人全体で、地域との交流を積極的に取り組まれていることは素晴らしい。今後は地域の人の参加が増えていくような取り組みや、ホームとしても、地域住民の認知症に対する理解が深まるような交流を検討されてはどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の意義を職員も再確認しながら、今回の評価は業務の見直しを含め、職員全員で実施できている。前回の評価受審以降に管理者の交代があり、前回からの取り組みは引き継がれていないが、今回の結果から改善点を認識し、取り組まれている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は定期的開催され、民生委員・人権擁護委員・家族・職員・市の関係者などが参加できている。その内容は、ホームの事業報告や認知症ケアとリスクなど、事業所としての考え方や方向性を説明し、意見交換などができている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービスに位置づけられ、運営推進会議の参加に加え、市や地域包括支援センターの担当者との意見交換をする場が増え、適宜情報提供も頂いている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会される家族は多くあり、入居者の様子や健康面などの状態を来訪時などに報告している。また、金銭管理の報告は出納帳のコピーなどを毎月郵送して行っている。職員の異動に関する報告は行っておらず、面会時などに驚かれることがある。</p>		<p>職員の異動については、家族にとっても不安の要素になりうる為、出来るだけ早期に報告されることが望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会に来られた時に、家族の意見や不満は伺うようにしている。契約時に苦情の受付についての説明を行い、運営推進会議への参加なども呼び掛けている。</p>		<p>入居者のご家族等が事業所に直接、意見・不満等を言い出し難いことも有り得るので、今後は、ご家族等が気楽に意見・不満等を言える機会作りの更なる工夫を期待したい。(例えば、家族会での家族同士の意見交換の場作りなど)</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の希望や適正などを考慮して異動はあるが、入居者に対しては混乱を最小限にするために、丁寧な挨拶や十分な会話を図るよう配慮している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ADL（日常生活動作）研修やターミナル研修など、法人内の専門職などが講師となり実施され参加されている。外部研修は案内などで参加を促し機会を提供しているが、休日の職員交代のこともあり最小限になっており、積極的な参加希望には至っていない。		職員の段階に応じた研修の計画を立てられ、外部の研修などにも計画的に参加できるような支援を検討して欲しい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームとの交流が十分図られ、近隣の二市二町グループホーム協会の運営にも携わり、講演会や勉強会などを開催できている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族にホームを見学してもらい、ホームでの生活やケアについて説明している。本人の受け入れの様子を見ながら、直接入居したり、法人内の特別養護老人ホームでのショート（短期入所）を利用してからの入所など適宜対応している。入居後は家族との連絡を密に行い、情報交換をする中で、必要時は来訪してもらったりしながらゆっくり関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者がその人らしく生活出来るように、声を掛け、思いに耳を傾けながら支援している。生活の習慣や料理法など、人生の先輩として学ぶことも多く、ケアを一緒に行うことで、出来た事などのささやかな達成感を共有できている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの思いを伺い、その人らしく暮らせるよう家族や職員間でも話し合い、出来ること出来ない事を踏まえた上で支援を検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者がその人らしく暮らせるために、現在抱えるニーズを、本人・家族・職員とも意見交換しながら、その解決に向けて介護計画を作成している。作成に当たっては、担当職員が詳細なアセスメントを行い、それに基づいた立案ができています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には半年に1回見直しを行っており、状態変化などがあれば、その都度話し合い、家族や専門家の意見も踏まえながら、計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームの体制として、医療連携体制加算をとっており、入所時よりターミナル期までのケアを説明し、本人・家族の了解のもと、かかりつけ医・訪問診療・訪問看護など医療連携を十分図り、終の棲家になるケアを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医や希望される医療機関を主治医に選択し、家族との受診が困難な時は職員が受診の支援を行っている。また、必要に応じ訪問診療や訪問看護が受けられる支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の契約で、ホームとしての体制や終末期ケアの取り組み・考え方について説明している。病院からの早期退院に向け話し合ったり、状態の変化時は家族・主治医と十分に話し合いを持ち、希望に沿って終末期ケアを実施しており、この1年間で3人の入居者を看取られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を人生の先輩として、それぞれの誇りや生き方を大切に対応するよう日頃より話し合い、丁寧な言葉掛けや態度でケアが行えている。記録物などプライバシーに関する物は、事務室にて管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	清潔面や体調面に注意を払いながら、その人らしい暮らしを大切にすることを心掛けている。実際には、日々のケア時に声掛けを行い希望を確認しながら、無理強いすることなく入居者のペースに合わせて対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は声を掛け誘導したりして、ホールの円卓で顔を合わせて、会話を楽しみながら、ゆっくり摂取できるよう支援している。介助が必要な人も多いが、職員が側で他の入居者とも話しながら、さりげなく介助し、その人のペースで食べれる配慮ができています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望を確認しながら、一人ずつ介助している。一人で入浴できる人には夕食後でも見守りをしながら入浴できているが、介助を要する人は夕食までに実施し、身体状況に合わせ、リフトや福祉用具を使って安全に介助している。嫌がる人には無理強いせず、時間をかけて声掛けを工夫したりし、入浴できない場合は清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の好みや出来る力を確認しながら、ペースに合わせ、庭の水やりや洗濯物たたみなど、役割を持ち、その支援を行うようにしている。また、地域への行事などに参加できるよう声を掛け、楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて庭や散歩に行く支援を行っており、毎日出掛ける人も自由に出来るよう離れて見守り、必要な支援を行うようにしている。地域とのつながりの中で、住民からの情報が得られることもある。重度化した入居者に対しては、1階のホールに出て人と接したり、希望で居室で過ごす人も他者の気配や季節を感じながら生活出来るよう、ホームや居室が小さなコミュニティと捉えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室も正面玄関も施錠せず、入居者の自由を確保した生活を支援できている。玄関にはチャイムの音で知らせるセンサーがあり、玄関から外門まではホールからの視界にあり、職員もさりげなく入居者の動きを確認しながら、見守っている。家族には、日頃から自由とリスクについて説明を行い、外部で避けられない事故についての了解を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に2回消防訓練を実施しており、日中・夜間を想定して、シュミレーションにて訓練し、対応を考えながら対策を図っている。		定期的に訓練は実施できているので、今後はさらに入居者も参加した訓練に取り組まれ、実際の動きや方法の検討が行われる事を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	献立は入居者の嗜好も含みながら、栄養士が作成し、食材は配達してもらっている。調理では入居者の状態に合わせて量や大きさを工夫し、必要に応じて粥やトロメリン・水ゼリーなどで栄養や水分摂取が安全に行われるよう支援している。食事摂取量などは、1週間毎の生活リズム表に記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ホールから見える庭には、季節によって草木や花が楽しめる様子で、プランターなども多く置かれている。ホールでは、円卓やソファを置き、それぞれの場所で過ごしなが、周りの声や気配、調理の音、匂いなどが十分感じられ、ホーム内が1つのコミュニティになるような空間作りを工夫されている。また、ホール掲示板には、入居者に社会情勢を伝えるために新聞の切り抜きを貼るなどの工夫もされている。		ホール掲示板に、季節感のある飾りや作品など、入居者にとって身近な生活感のあるものを交えるなどして、時や場所の認識に対する働きかけへの更なる工夫を期待したい。
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	自宅で使っていた家具や仏壇などを居室に持ち込み、家族の写真や好みの鉢植えなどを飾ったりして、安心して過ごせる環境づくりが行えている。		

 は、重点項目。